

令和7年度事業報告

事業の概要 第二部

II. 中学校高等学校の部	P. 3
初等学校の部	P.14
幼稚園の部	P.27
III. 教育研究所の部	P.33
法人事務局の部	P.36



2026年6月
学校法人成城学園

II .

中学校高等学校の部

初等学校の部

幼稚園の部

成城学園中学校高等学校

(I) 教育活動

A. 国際教育

《中期計画の目標》

「異なる文化や価値観」を理解しそれに共感すると同時に、「自国の文化や価値観」を伝えていくこともできる知識・教養を身につけさせる教育プログラムを、様々な教科の横断的な学びから発展させていく。その際、生徒が視野を広げられるような体験を有機的に繋ぎながら積み重ね、それらの中で、国際的なコミュニケーションを可能にするための言語運用能力の向上をはかる。特に英語については、英語検定試験等を活用し各学年で設定した到達目標に向けた学習活動を展開する。

《中期計画の取組》

- ①短期留学、長期留学、留学生との交流などの国際交流プログラムの充実
- ②歴史(日本史、世界史)、経済、地理、環境教育、人権教育の視点を通じて他者理解を学ぶ
- ③種々の検定試験等の有効活用、e-learning 教材の活用など、語学教育の深化
- ④国際教育(海外の大学進学)を意識した進路指導の充実

《事業計画》

- ・ 現行ならびに新規の海外研修プログラムの充実をはかる。特に昨年度(2024年度)までに実施されたプログラムでの実践を引き継ぎ、その定着をはかる。
- ・ 国際理解教育の視点をもとに検討を重ねた新規中学3年生研修旅行(国内)の企画内容を充実させ、他の教育活動との有機的な結びつきをもたらすことができるようにしていく。
- ・ これまで実施してきた実用英語検定試験への取り組みを深めつつ、今年度(6月)より高等学校で実施となるGTECについて、事前学習及び事後の取り組みを充実させていく。
- ・ グローバルコンピテンスプログラム(GCP)への取り組みや洋書教材を使用した授業を発展させていき、ならびに、外務省や各国大使館などへ訪問する機会を設け、異文化理解、多文化共生社会の重要性についての学びを深める。
- ・ 海外の大学進学に関する現状の調査ならびに研究を行っていく。

《事業報告》

- ・ 今年度より、高校全学年対象のGTEC検定版を実施することができた。とくに、事前学習、当日の運営などについては、実績を積むことができた。
- ・ これまで取り組んできた、GCPや洋書教材を使用した授業については、生徒の理解を深める為の工夫を重ねることができた。
- ・ SAILプログラムの一つとして、高校生対象の、大阪万博への訪問を実施し、国際理解の基礎となる貴重な体験をさせることができた。
- ・ 海外大学進学に関しては、とくに、英国大学への短期留学、ならびに進学に関する面談を行うしくみを、昨年度に引き続き継続的に実施し、複数の生徒が参加した。
- ・ 12月に、早稲田大学学生団体のセカクルによる異文化理解プログラムを実施し、100名以上の生徒の参加が見られた。
- ・ ターム留学制度を設け、これに関連した事前学習等を行い、生徒7名が1月23日から4月5日にかけて、オーストラリアの高校で学校生活を送ることができた。
- ・ 8月にバリ島とインドにおいて、現地の課題解決を目的とした探究プログラムを実施した。また本年度は、フィンランドの教育や自然を通じた学びを基盤として「自分らしさとは何か」を考え、自己を深める貴重な経験を得るプログラムも行った。さらに3月にはベトナムへの企画も実

施することができた。

B. 理数系教育

《中期計画の目標》

生徒が課題を発見・分析・解決できる、高い問題解決能力を育成するために、これまでの授業・学校行事を、「探究」の視点から再構築していく。特に、自然観察や科学実験、データ分析、モデル化等、より適切なアセスメントを行う体制をつくり、生徒の理解力に応じた学習支援体制を構築していく。

《中期計画の取組》

- ①各学年の学校行事を展開する中での、新たな視点を取り入れた課題解決型の教育活動(PBL)
- ②「サイエンス教室」の継続的な実施など、理数系への興味関心を深めるためのプログラムの開発
- ③理科実験室の活用、基礎教育(定着)の充実、ICT 機器を活用した発問や対話を重視した学習活動、デジタル・シティズンシップ教育の展開など、日常的な学習活動において、論理的な思考力を高める施策

《事業計画》

- ・昨年度(2024年度)に引き続き、各学年の学校行事の中に、数学や理科の視点を取り入れた課題を設定していくための調査(実践研究)を行っていく。
- ・これまで継続的に実施してきた「サイエンス教室」をもとに、理数系への興味を広げ、深めるためのプログラムを実施していく。
- ・昨年度(2024年度)より実施した「プログラミング教室」を継続しつつ、その内容を充実させていく。
- ・高等学校「ゼミナール」等を通じて、調査研究の手法、表現力の育成など、探究的な取り組みについてより深みを持たせ、理数系教育にもつながる教育活動を展開していく。
- ・データサイエンスについては「ゼミナール」やSAILプログラムの中で適宜、講座を開設し、データをベースにしたものの考え方が深められるようにしていく。

《事業報告》

- ・7月に、サイエンス教室「花火の原理を知って、もっと花火を楽しもう!」を、火薬研究の第一人者である株式会社グリーン・パイロラント(元産業技術総合研究所)松永猛裕氏のご指導の下実施することができた。炎色反応や、分光などに関する基礎的な理解が深まる内容であった。さらに、2月には昨年度に引き続き、本校教員による「化石の観察」を行うサイエンス教室を実施することができた。参加生徒は、木の葉や昆虫の化石を見つけることができる貴重な体験をすることができた。
- ・プログラミング教室として、昨年度までの内容をより充実させる形の「ロボット制作ならびにプログラミング」をテーマとした活動を定期的(月1回)に実施し、回数を重ねる中で、プログラミングの基礎を学ぶ機会を作ることができた。
- ・情報科ではメディアリテラシー育成を目的に、様々な実践を行った。とくに、今年度は、科学的な情報を如何に読み解くかをテーマに、実際に生徒自らがデータ分析の対象者となって、データ収集、分析を経験する探究活動を実施した。具体的には、インターネット上に存在する糖尿病に関する文章メディア及び、映像メディアを読解した際の解釈の違いが起こるかを検討するといった内容にも取り組んだ。
- ・高校2年生対象「ゼミナールⅠ」では、1年間をかけて、様々なテーマに取り組んでおり、成果発表会では昨年度を上回る発表が相次いだ。その中でも特に『脱炭素社会へ導く「学び」の形』という探究活動が高い評価を受けた。
- ・高校3年生対象「ゼミナールⅡ」「アントレプレナーシップと経済」では、ビジネスプランコン

テストに参加。ビジネスで社会課題を解決することをテーマに、様々なデータを用いながら、生徒それぞれが考える課題に対するビジネスプランを作成した。また、2名の生徒が「桃山学院大学 第20回 ビジネスプランコンテスト」の本選に出場し、それ以外の生徒もいくつかの企業から連絡を受けるなど、高い評価を受けた。

- SAILプログラムでは、自販機ベンダーの方から協力を得て「自販機でマーケティング」セミナーを実施した。自販機の売り上げデータから世の中でどういった飲み物が売れるのか、成城学園中高で売れる飲み物は何かを考えていくセミナーで、参加した生徒からは好評であった。来年度は、生徒が選んだ飲み物が実際どれくらい売れるのかといったデータも取りながら、実践的にデータを扱う方法について学んでいく予定である。

C. 情操・教養教育

《中期計画の目標》

学校行事や部活動等を中心とした、様々な表現活動の場を、従来の枠にとらわれずに広げ充実させていく。

《中期計画の取組》

- ①国際教育の枠組みの中で多様性理解に繋がる情操・教養活動の展開
- ②日本語表現力を磨く活動の充実
- ③芸術系科目を基礎とした、共感を大切に活動の充実
- ④学校行事を通じた、異学年の交流とリーダーシップ、フォロアーシップを高める活動の深化
- ⑤保護者と共に考えるデジタル・シティズンシップ教育の拡充

《事業計画》

- ・飛翔祭（体育祭）、文化祭、合唱コンクールなどを通して、異学年との交流、多様な出会いの場を充実させていく。
- ・昨年度（2024年度）より開始した、各行事の検討及び見直しをもとにして、今年度（2025年度）実施される各行事ならびに全体の位置づけや結びつき、さらに運営上の問題点、探究的な取り組みを評価・検討していく。
- ・昨年度（2024年度）に引き続き、中学校の作文発表会等の文章等による表現力を高める取り組みの充実をはかり、生徒の活躍の場を設定していく。
- ・芸術系科目や部活動における様々な成果発表を中心とし、個々の個性の多様性を大切なものとして受け止め、かつ、認めあえるような場を創っていく。

《事業報告》

- ・例年どおり、飛翔祭、文化祭など行事に関する、生徒の実行委員会組織等が熱心に活動し、とくに高校3年生がリーダーとして力を伸ばし発揮する場面をたくさんつくることができた。それぞれが充実した教育活動となった。
- ・6月に実施された文連週間では、文化部の発表が、展示、発表会といった形式で行われた。
- ・海の学校（中1）、山の学校（中2）、研修旅行（中3）、課外教室（高校）といった、宿泊行事等が、例年どおり行われ、個々の目的に沿った活動が行われた。
- ・今年度実施した研修旅行（中3）においては、従来とあり方を変え、英語を母国語としない留学生に、生徒たちが研修地である福島県会津地方の歴史や文化を案内するという交流活動を実施した。語学交流だけではなく、日本の文化を紹介する中で留学生の母国の文化との違いにも触れることができ、とても有意義な異文化理解の場となった。
- ・2月に実施された強歩大会は、事前練習も含め、一人一人が真剣に取り組み、充実したものとなった。
- ・3月に実施された、中学校3年生選択科目の展示・発表では、豊かな感性の現れとなるような多数の作品が展示され、その成果が認められた。
- ・3月17日に実施された中学校の作文発表会では、作文という形での表現力を高める取り組みの成果が見られ、個性あふれる多数のユニークな文章表現に生徒たちが触れる機会となった。

D. その他の重点分野

《中期計画の目標》

本学園独自の「SAIL(SEIJO Academic Interactive Learning)」プログラムを2024年度より本格的に起動させ、異年齢により構成されたコミュニティの中で様々な思考法を学び、協働しながら課題解決する経験を重ねていく。さらに、経験による硬直化を防ぎつつ「未知」に挑むスキル(アンラーニング)を持ち成長しつづける生徒が増え、2030年には自主的な活動として多くの「探究するコミュニティ」が学園内に創られるようにする。

《中期計画の取組》

①大学との連携

ロジカルシンキングやデザイン思考など、課題解決の方法としての思考法について学ぶ。この学習体験により、体系だった学びで得た知識や思考力が成城大学または他大学での研究活動、さらにその後の人生におけるアンラーニングにつながることを強く意識させ、中高大の学びのロードマップを描けるようにする。この学習経験によって得たことをアウトプットし、次なる課題を創出する。

②社会に目を向けた活動

様々な企業、団体での取り組みにふれる機会を持つ。その経験により社会に出てからの課題解決のイメージをつかみ、必要なスキルは何かを考える。また、多様な文化や背景を持つ人たちも含め、他者の視点を理解し、共感する力を育む。この学習経験によって得たことをアウトプットし、個人と社会との関係について次なる課題を創出する。

③学びの原点の探究

「①②によって得た力を成城学園という学びの場にどう還元していくか」という問いのもと、協働しながら課題解決に向けたアイデア創発を行い、このプログラムを終了した後も自主的に探究するチームが創られるよう学習環境を調える。また、幼稚園や初等学校との交流を通して「学びの原点とは何か」を考える機会を持つ。

《事業計画》

SAILプログラムについては、昨年度(2024年度)、テレビ局や通信社など企業訪問や大学訪問を行うことで生徒のキャリアに対する意識を向上させることができたため、さらに多くの企業訪問や大学訪問を実施していく。また、東証や日本銀行への訪問など学校で学んだことと実社会とのつながりが体験として実感できる機会を多く設けていく。さらに、地域での課題解決に向けたプロジェクトに参加したり、外部団体が主催するコンテストなどに参加したりするといった取り組みに関しても、より充実させていく。特に世田谷区とは連携を強め、地域社会との結びつきをより強めていく。こうした取り組みをもとに、生徒個々が「問い」を見つけ、課題を解決していく力を育成していく。

《事業報告》

- ・「社会にふれる」「社会を知る」「社会に関わる」といった大きな3つのテーマのもとに、慶應義塾大学、国会、東京証券取引所、日本弁護士連合会、農林水産省への訪問等の企画が実施することができた。さらに、6月にキンビバレッジ株式会社のご協力の下、「紅茶セミナー」を実施し、来校していたマクダナ校の生徒も含め、さまざまな角度から紅茶について学ぶ機会を設けることができた。12月には、早稲田大学、防衛省、外務省への訪問も行い、生徒の進路・キャリア意識の向上に一役買っている。
- ・7月末に、SAILプログラムの新企画として、沖縄研修(沖縄本島新規事業プログラム)及び大阪研修(関西・大阪万博プログラム)を実施することができた。
- ・世田谷区との連携に関しては、高3ゼミナールの一部で、世田谷区役所に訪問し、世田谷区の地域課題に関するインタビュー調査を行った。また、その調査内容を基に日本政策金融公庫主催の「高校生ビジネスプラン・グランプリ」にも参加した。

- ・AIを活用した教育実践「学校現場のAI活用実践コンテスト2025」において、本校での取り組みが、「ベスト・プラクティス」として高い評価を受けた。
- ・ゼミナールとの関連では、高校3年生2名が、「桃山学院大学 第20回 ビジネスプランコンテスト」の本選に出場し「移動特化型の休息インフラの整備」「継 Fes（ケイフェス）：文化継承をアップデートする次世代インフラ」などの発表を行うことができた。

(Ⅱ) 研究活動

《中期計画の目標》

日々の授業の中で、生徒の自主性や創造性を引き出すような授業運営・評価方法についての多様な情報を集め、それらについて研究・実践するための研修会・研究会を実施していく。とくに、教員同士が情報交換やアイデアの共有を行える場を設け、教育の質を向上させる取り組みを進めていく。さらに、社会との連携を強め、生徒の発想の柔軟性を高めるための支援体制を整えていく。さらに、教員の仕事について、効率化、環境整備等についても、リサーチを進めていく。

《中期計画の取組》

- ①教育効果をより高めるための ICT 機器利用に関する研究
- ②学び方、学ばせ方に関する教員間の学び合いの充実
- ③多様な観点からの評価方法をとり入れていくための継続的な研究
- ④多様な評価方法に対応できる、評価システム、教務処理システム(PC 環境)に関する研究
- ⑤課外教室等の学校行事について、「探究」的な活動を高めるための研究
- ⑥豊かな経験をもつ社会人との出会いを演出し、生徒との対話の機会を増やしていくための活動
- ⑦働き方改革を見据えた効率的で効果的な教材作成に関する研究
- ⑧将来的な部活動のあり方に関して考えていくための調査活動

《事業計画》

- ・昨年度(2024年度)に検討を行った、パフォーマンス評価の方法について、その具体的な適用を通して、各教科における、学び方・学ばせ方の検討をはかっていく。
- ・中高研修会や幼初中高合同研究会などを通じて、合理的配慮に関する教員内の認識を深め、多様な生徒の状況に対応できる、豊かなインクルーシブ教育の礎を構築していくための検討を行う。
- ・「探究」に重きを置いた新たな課外教室への取り組みを、個々の企画の成果発表を通して確認、評価できるようにしていく。
- ・教員の「働き方改革」との関連づけの中で、部活動指導のあり方に関する、新たなルールづくりを検討していく。

《事業報告》

- ・ゼミナールでは、これまでの流れを踏まえ、メンター(中高の卒業生や成城大学の学生)との関わりを軸とした、探究活動を実施することができた。この活動を通して、各々の生徒が、自己理解を深め、かつ、表現力を向上させることができた。
- ・「読み書き配慮」に関する研修会の経験をもとに、複数の事例を対象として、通常授業もしくは定期テストにおける合理的配慮の実践を深めていくことができた。また、個々の事例を踏まえたガイドラインを作成し、柔軟な対応が可能となるような対応を行った。また、合同研究会においても、幼初とともに学園における合理的配慮のあり方について検討を行った。
- ・カリキュラムマネジメント委員会より、課外教室の今後のあり方について「探究活動としての意義づけ」を深める形の具体案についての提言が行われた。とくに、次年度を、移行期間とする形での具体案が示され、実施に向けての条件整備がなされた。
- ・はたらき方改革委員会による現状分析に関する話し合いが定期的に行われ、業務内容の見直しに関する提言が行われた。
- ・同窓会にご協力をいただき、キャリアガイダンス(1月28日 中3対象)を実施することができた。卒業生の先輩から様々なキャリア(仕事)に関する、目的意識や様々な実体験をお聞きする中で、個々の生徒の将来への動機づけとなる機会をつくることができた。

(Ⅲ) 社会連携活動

《中期計画の目標》

地域との連携を深めていくため、これまで続けてきた各種連携活動の内容を深めていく。さらに、中高協会第8支部、もしくは、5学園との交流を通して、多くの私立学校、さらに公立学校との交流を拡充していく。

《中期計画の取組》

- ①BLS・水辺の安全講習を通した「いのちの教育」の普及活動など、学内スキルを活用した活動の充実
- ②学内施設を利用した地域・他校との交流
- ③学内自然環境(100年の森、杉の森)の活用を通じた、地域との交流活動の展開
- ④ボランティア活動等の場を広げ、人とのふれ合いを大切にする活動の展開

《事業計画》

- ・昨年度(2024年度)に引き続き、地域(世田谷区、狛江市)との連携活動を深めていく。
- ・中高協会第8支部の各校との定期的な情報交換など連携をとっていく。
- ・環境保全、防災教育といった視点から、中学校高等学校の生徒たちの地域連携に関する意識を高めていくための取り組みを実施していく。

《事業報告》

- ・世田谷区グリーンプロジェクトへ高校3年生が積極的に参加し、世田谷区との連携を深める形での取り組みを充実させることができた。また、他校の連携を深める形で行われたワークショップ(1月24日実施)では、事前準備から、その内容を充実させることができた。また、これらの成果は世田谷区が発行するパンフレットへの掲載などの形で対外的にもアピールできた。3月には脱炭素社会に向けての広報動画を作成し、成果発表会という形で発表した。
- ・中高協会第8支部の各校との定期的な情報交換を行い、私学拡充大会などの、父母の委員の協力を得た形での活動を積極的に行うことができた。
- ・1月8日・9日実施の課外教室「学校に泊まろう」では、大規模災害により学校が避難所になった状況を想定した、防災学習が行われた。情報リテラシーと衛生管理についての講習会も実施され、災害時を想定した具体的な話を聞くことを通して生徒ならびに教員が理解を深める場をつくることができた。

(IV) 教育環境整備

《中期計画の目標》

多様なバックグラウンドを持つ生徒が協力し円滑な協働作業ができるよう、グループ学習スペース、発表スペースの充実を図り、ICT機器等のコラボレーションツールを活用できるようにしていく。また、災害時の備えを含め、生徒の安全や健康への配慮を広い視点で考え改善点を見出していく。

《中期計画の取組》

- ①コリドースペース、カフェテリア等の活用について、生徒の意見をとり入れつつ検討
- ②現「PC 教室」の新展開を考えていくための情報収集
- ③生徒のケガ、体調管理等に関連する学校環境・設備の影響についての調査と改善
- ④科学実験を中心とした、生徒の探究的な取り組みを発展させるための施設設備の拡充
- ⑤芸術系科目を通じた表現力を高めるため活動を支える施設・設備の在り方についての研究
- ⑥技術・家庭科を中心に「作る」ことを豊かにする施設の在り方についての研究

《事業計画》

- ・コリドースペース、カフェテリア等については、順調に利用・活用が広がっていることを受けて、さらなる利活用の方法について考えていく。
- ・理科、芸術、技術・家庭といった教科について、それぞれの施設設備を、探究的な学習との関連をもとに引き続き研究していく。
- ・学校生活全般における、事故防止の観点から、これまでのケガの事例などをもとに、種々の安全配慮について継続的に検討していく。
- ・ICT機器利用に関しては、動画編集やCG作成・プログラミングなど多様な学びに対応できるようにするため、高機能PCを旧PC教室に導入するなどし、探究的な学習のサポート、生徒の表現力向上に寄与できる環境を整える。

《事業報告》

- ・カフェテラス、コリドースペースの利用については、6月の文連週間、9月の飛翔祭、11月の文化祭、3月の中3選択授業の展示など、しばしば充実した展示スペースとして活用され、広くアピールできる場となった。また、マクダナ校からの短期留学生在が来校した際には、それを紹介するコーナーが設置され、国際交流企画の場としても活用された。展示スペースだけでなく、情報発信の場としての活用が定着してきている。
- ・事故防止の観点、とくに熱中症対策の一つとして、コリドースペースが暑熱対策の場として利用された。
- ・旧PC教室において、プログラミング教室（ロボットプログラミング）を中心とした、SAIL企画が実施された。また、プログラミング教室では新しく購入したノートパソコンを中学生が活用することによって、中学段階でもPCの利活用が進んだ。
- ・生徒の利便性のみならず、防災、暑熱対策の一つとして、各階に自動販売機（飲料、軽食）を設置した。この対応により、休み時間の教室移動の際なども含めて利用が高まり、よい効果をもたらされた。
- ・昨年度より導入された生徒用PC（高校生対象）については、次年度の完成学年（3学年ともがPC利用）に向けて、その利活用が定着した。
- ・地下1階フロアの学習環境整備の一環として、コリドーで利用する移動式ホワイトボードを整備した。また図書室内で新調されたテレビモニターを活用した授業展開もみられた。こうした機材

は、文化祭等でも利用され、生徒の表現力を生かした展示に活用された。

成城学園初等学校

(I) 教育活動

A. 国際教育

《中期計画の目標》

- 1)英語の聞く・話す・読む・書くの4技能を統合的に活用しながら、積極的にコミュニケーションをはかれる子どもを育成する。
- 2)世界の多様な価値観の学びを通じて、異質なモノ・コトの存在を認める姿勢を育む。

《中期計画の取組》

- ①外部試験を活用した、英語の能力の育成
- ②ICTを活用した英語授業、家庭学習の更なる充実
- ③ホームステイプログラムの充実・拡充
- ④外国人講師卒の拡充

《事業計画》

- (1) 4、5、6年生で英検4級未取得者に4級または5級の受検を促す。6年生での英検4級取得率80%を達成する。
- (2) 3年生以上児童1人1台iPadの5年目。普段の授業と家庭学習で英語力強化に効果的なMONOXERをはじめ各種アプリを活用する。全学年の普段の授業でICT機器を活用し学習効果の向上を図るとともに、より効果的な活用の仕方(適当ではない場合を明らかにする)を探る。
- (3) 1,2年生：週2、3,4年生：週2、5,6年生：週3
ヒューマンアカデミー社からの原案を基に作成した高学年オリジナルカリキュラムを実践しつつ、より初等学校に適したカリキュラムに改訂していく。
- (4) 原則、日本人英語教員と外国人講師のティームティーチング(TT)によるオールイングリッシュ授業(全クラス・全授業)。
 - ・授業中の母語の有効活用(イングリッシュリッチの考え)。
 - ・英国オックスフォード大学出版のテキストブックの使用。
 - ・単元小テスト・パフォーマンステストの実施。
 - ・サイドリーダー等、副教材の活用。
 - ・ワードリストの活用。
 - ・フォニックスの活用。
- (5) 学習計画の提示、児童の振り返りの実施。思考力・判断力・表現力の向上を目指し、生きた言語使用場面を作り出す。対話的で探究的な深い学びの実現を図る。教科横断型授業の実施(社会・理科・美術等のトピックについて、児童が既に持っている知識や技能を活用して英語学習を深める)。
- (6) 語学力を伸ばす機会とし、多文化理解及び国際交流の場の提供を図る(成城大学の留学生との交流。英語を母国語としない海外の児童の交流)。
- (7) 「オーストラリア・ホームステイの旅」の8月実施(予定)
- (8) 保護者と英語を用いてゲームをしたり会話をしたりして英語会話に慣れ親しむ取組の「Let's have a chat!」の対象学年を拡大し、4年生と6年生を対象にする。
- (9) 台湾の私立ヴィクトリア小学校との連携を強化する(交換留学の実現に向けて)。

《事業報告》

- (1) 6年次における目標達成に向け、英検対策ソフトのMONOXERを活用したり、英検形式の定期テストを各学年実施している。特に家庭学習では、進捗状況をモニタリングし、児童の学習習慣を確立させる取り組みを行った。
- (2.1) iPadアプリMONOXERについて
- ・3年次ではiPadアプリ『MONOXER』を活用し、1-2年生で習得した単語を反復練習することで、基礎的・基本的な語彙を長期的に定着させる取り組みをした。
 - ・4年次～6年次では、英検5級の合格に向けた対策として英検MONOXERを実施。20日間の単語学習を行った後に、MONOXER上で小テストを実施。「20日間学習⇔小テスト」のサイクルを繰り返すことで、英検に出てくる単語の定着を計った。
- (2.2) 各種アプリの活用について
- ・3年生以上ではiPadを用いた成果物発表（プレゼンテーションや動画撮影など）を積極的に実施している。Google Classroomを活用して、各児童の学習成果をデジタルポートフォリオとして記録した。
 - ・共有し、振り返りや自己評価の場を設けている。これにより、児童自身が学びの過程を見直し、次のステップに向けた目標設定を行う姿勢を育成することができた。
 - ・音声付きオンラインライブラリーのアプリ（epic!）を使用し、長期休みにサイドリーダーを課題図書として実施。4年生以上には「サイドリーダー確認テスト」を休み明けの夏と冬に計2回実施した。
 - ・その他、ゲーム感覚で楽しく知識・技能を習得することができるソフト（Kahoot!, Wayground, Blooket, Bamboozle, Wordwallなど）を使用し、日頃の英語学習に役立てた。
- (3) Humanアカデミー社のカリキュラムをベースに、4、5、6年生においては、基礎・基本となる語彙や表現力を活用し、思考力・判断力・表現力が育成できるようになるプロジェクト型学習を実施。プロジェクト型学習をより効果的にするための研究も現在進めている（参考：2023年度教育研究所研究助成『児童が英語に自信を持てるようになるプログラム型・プロジェクト型学習融合カリキュラム作成と検証』（梶山&今井, 2023）；2024年度教育研究所助成『プログラム・プロジェクト型学習融合カリキュラムが与える小学校英語学習者への情意的変化』（今井&梶山, 2024）。なお、3年生においてもプロジェクト型学習を取り入れ工夫を行った。
- (4) 4技能を包括的に育成するため、継続的にティームティーチングを導入。基本はオールイングリッシュのスタンスではあるが、母語を効果的に活用することで、授業の目標を明確にし、学習者の動機づけを高め、不安を軽減することができた。
- (5) 思考力・判断力・表現力を育成するために、4年生以上に対しては積極的に「プロジェクト型学習」を展開している。プロジェクト型学習に関してはなるべく本校ならではのトピック（例：恐竜ミュージアムで恐竜発表をしよう / 台湾の小学生のために学校紹介をしよう / 美術の時間に作成した作品を紹介しよう等）になるよう実施した。
- (6) 6月にアメリカより研修生4名が本校に来校。オーストラリア・ホームステイの旅に所属する20名の児童が代表として学校案内を実施。また、昨年に引き続き、来年3月には台湾の「ビクトリアスクール」より約70名の小学6年生が来校した。そこではバディ制度を導入し、児童同士の異文化理解や英語でのコミュニケーションスキルの向上を図った。
- (7) 2025年8月23日（土）から9月1日（月）まで、オーストラリア国ブリスベン市内にてホームステイを実施した。参加児童は5・6年生希望者の20名だった。ステイ先はEducation

Queensland International (以下E. Q. I.) 認定の民間宅だった。学校はバンヨーにあるEarnshaw State Collegeに通った。

B. 理数系教育

《中期計画の目標》

- 1)(数学)初等学校独自の領域(仮名:「比例的推論」)を設立する。
- 2)(理科)大単元構想に基づき、単元同士を系統的に結び付けるカリキュラム改革を実行する。

《中期計画の取組》

- ①(数学)比例的推論関係の研究授業など、新領域の構築に向けた研究と実践
- ②(理科)エネルギー領域に関する大単元を構想する
- ③(理科)恐竜・化石ギャラリーを活用した、異学年交流や英語科との教科間連携による授業の実践
- ④(理科)FOSSを活用した実践研究

《事業計画》

- (1) 教育改造研究会・授業研究会の実施による実践の改善とカリキュラムの見直し。
- (2) 日々進歩していく技術に対応するため、教師自身が研修会に参加したり、講師を招いたりしての研究会・研修会を開催したりする。
- (3) 6年間を通じたデジタル・シティズンシップ教育カリキュラムの実施と検討。
- (4) 恐竜・化石ギャラリーの有効活用等、理数系教育の充実を図る。
- (5) 比例的推論領域も含む、全ての単元における初等学校数学部独自の「探究推進プラン」に基づく授業研究の継続
- (6) 実験観察をより充実させるため、理科IT等教員の配置の実現について検討を行う。

《事業報告》

- (1) 2026年2月20日(金)、21日(土)の2日間で教育改造研究会を実施した。
- (2) 技術の進歩に対応するために、講師を招いて以下のような研究会・研修会を開催した。
 - ・毎学期(6月・9月・1月)「校内研究会」を開催
 - ・第43回 教育改造研究会 2月20日・21日に開催
 - ・年間を通じて全教員対象の「教科部主催の会(体育の実技講習や学校づくりをテーマとした話し合い)」、「研究部主催の会(初等学校の授業への理解を深めるべく『劇』や『音楽』の授業体験)の実施
 - ・教科研究部主催の「対外向け・自主研究会」の開催(国語・数学・理科・社会・英語)
 また、年間を通じ、教職員個人で「学外の研修会」に参加した。研修報告については、全職員に共有・報告した。
- (3) デジタル・シティズンシップ教育の拡充について
DC教育については、親子学習会を2回に分け中学年・高学年の2回開催として実施した。今年度は対外的な発表にも恵まれた。ATACカンファレンス2025、株式会社コードタクト主催オンラインセミナー『「やってみる」から始まるデジタル・シティズンシップ教育』、Education AI Summit 2025、教育DX推進フォーラムなどで、本学の実践を報告した。
- (4) 日々の授業実践にて研究を継続して行った。
- (5) 4～6年の夏の学校、3年秋の学校無事終了。2月に、4～6年生のスキー学校も大過なく終了した。
- (6) 恐竜・化石ギャラリーの有効活用・理科系教育の充実を図った。
児童の実験観察の充実と実験等の安全管理を目的に理科授業にITを導入した。準備等含め、児童

の実験観察の充実や、安全管理の体制について運用しながらの検討を進めている。

C. 情操・教養教育

《中期計画の目標》

- 1) 出会いやかかわりを大切にし、言葉や文字、歌や身体等、様々な表現方法で、思いを伝える経験を通じて、豊かな表現力を育む。
- 2) 子どもたちの言葉や身体を生かし、新たな創造活動を基盤とする授業の実施。

《中期計画の取組》

- ①(劇)子どもたちの「劇づくり」を基にする新カリキュラムの構築
- ②(遊散)遊び・散歩科の実践研究の充実

《事業計画》

- (1) カリキュラムの見直し及び改訂、カリキュラムの実施。(美術・音楽・体育・舞踊・劇・文学)に関連して
 - ・(美術) ICT 機器を活用してウェブ上でのポートフォリオ作成や、機器を使って思考を可視化する取り組みを行う。それらを活用し、個人内評価へつなげる。
 - ・(美術) 「出会いやかかわりを大切に」し外部講師や地域と連携した造形活動の授業づくりを行う。
 - ・(音楽) 「音楽の会」実施を継続。
 - ・(舞踊) 授業による成果発表の場である「舞踊発表会」実施の継続。
 - ・(体育) 個々の成長を見守りながら、自身で設定した目標に向かって努力し積み重ねて取り組んでいける環境の設定の継続。
 - ・(文学) 多様な作品を鑑賞し、感じたことを表現することができる。従来の生活作文に加え、創作活動も視野に入れて研究の継続。
 - ・(劇) : 児童が「劇を創る」ことを軸とした、第3次カリキュラム改訂の継続。これに伴い、独自教材「げきのほん」についてもカリキュラムに沿った内容へ改める。
 - ・(劇) 劇の会の実施の継続。
- (2) 音楽の会、劇の会終了後の児童の「振り返り」及び教員の反省等から更なる内容の充実を図る取組の継続。
- (3) 児童の創作・表現活動について研究の継続。
- (4) 「初等学校独自」に関連して
 - ・『つながり』の在り方」の研究の継続。
 - 「つくる」活動を中核にコトづくりを大事にした授業をカリキュラムに取り入れる(美術)。
 - ・命を守る生命教育の一環としてのライフセービング部の活動継続。音楽系課外クラブの活動充実に向け取り組む。
 - ・教室内外、学校・学園内外での様々な体験からの「学び」と創造力を育むクラスデーのさらなる充実。
- (5) 遊び・散歩科の実践研究の充実
 - ・教育改造研究会、東初協一斉研修会などの機会に、遊び・散歩の授業公開を積極的に行う。
 - ・昨年度の教員研修会「小学校の先生と考える遊びのこと」で得た「実践研究を複数人で報告しよう」を、部会で定期的に行っていく。
 - ・外部講師に学期1回の授業参観をいただき、本校遊び散歩科の意義についてご指導いただく。
- (6) 校外学習等の充実(夏の学校、スキー学校、クラスデー、特別校外学習等)。

《事業報告》

- (1)美術・音楽・体育・舞踊・劇・文学で、カリキュラムの見直し及び改訂、カリキュラムの実施状況について
- (美術) ウェブクラウド(スクールタクト)を利用しウェブ上でのポートフォリオ作成をし、思考を可視化すると共に振り返り活動も行い、個人内評価・形成的評価も行った。
- (音楽) 今年度、12月音楽の会がコロナ禍前の通常スタイルである、3年生(クラス発表)、6年生(クラス合奏)、その他の学年(学年発表)、全校合唱伴奏(器楽伴奏)、合唱部ブラスバンド部、教職員合唱の発表を実施した。
- (3)(劇)旧同人の編んだ研究書や叢書を紐解きながら、童創作について、当時の劇科では、どのような指導が行われていたのかを調査した。また、児童の表現については「観る／観られる」という関係性に焦点を置きながら、特に「観る」立場の子どもたちを、活動へ適切に関わらせるための手立てや方略について検討を進めた。
- (美術) 絵のへや・工芸のへやに設置したプロジェクターを活用し、鑑賞教育を充実させた。今後、彫塑のへやにも設置し、三教科で連携しカリキュラムの見直しも含めよりよい鑑賞教育を行う予定である。
- (4)「初等学校独自」に関連して
- ・コロナ禍を経た『『つながり』の在り方』に関して、「つくる」活動を中核にコトづくりを大事にした授業をカリキュラムに取り入れ実践した。
 - ・命を守る生命の一環としてのライフセービングの活動を継続中。
- (音楽) 音楽系課外クラブの活動充実に向け取り組んだ。音楽の会、東初協音楽祭、学園音楽祭参加した。ブラスバンド部は、運動会ファンファーレ演奏(合同体育、秋の運動会)、合唱部は、NHK全国学校音楽コンクール、文化祭オータムコンサート参加した。

D. その他の重点分野

《中期計画の目標》

個性尊重の教育に関わる、学習環境整備。

《中期計画の取組》

①学びサポーターの充実

②成城幼稚園と成城学園初等学校の垣根を下げ、園児への遊び場開放や幼初つながり行事の拡充

《事業計画》

- (1) 成城大学や他大学在籍中の初等学校の卒業生を中心に、児童支援ボランティアとしての「学びサポーター」の充実を図る。
- (2) 成城幼稚園の保護者・園児が自由に参観できる日（2024年度60日）の前年度並みの確保。
- (3) 個性尊重の教育の充実のための研修会の実施。
- (4) 個性尊重の教育の充実のためのシステム（1学級2人体制）づくりと人的補充についての検討。

《事業報告》

- ① 橋本教諭を中心に活動した。初等学校卒業生が学びサポーターとして、多数参加してくれた。しかし、常時学びサポーターがいる状況は中々実現できなかった。
- ② 成城幼稚園と初等学校との連携については、コミュニケーションの頻度が上がった。昨年度からの継続で、成城幼稚園保護者・児童の初等学校見学について、ゆとりをもって見学してもらえた。（1学期、2学期とも、約30日）。

(Ⅱ) 研究活動

《中期計画の目標》

児童の教育活動の充実を図るため、授業研究を通して、教員の授業力の向上を目指し、その成果を発表する。

《中期計画の取組》

- ①外部発表の継続・充実
- ②校内授業研究会の継続・充実
- ③教育改造研究会の継続実施
- ④『文質彬彬』にて研究成果の一部をまとめる

《事業計画》

- (1) デジタル・シティズンシップ教育の充実。ICT 教育先進校として、ICT 機器やAI 等の先進技術を活用した教育実践の研究の充実と発信を図る。
- (2) 個性尊重の教育の充実につながる児童理解研修会の実施。
 - ・教科ごとの外部講師を招いた授業研究の実施。全教員が年間1回以上の外部研究会への参加及び研究内容の報告。授業力向上を目的とした新人研修の継続実施。教育改造研究会の実施。
- (3) 研究発表に関連して
 - ・日本数学教育学会全国大会・新算数研究会（湯河原セミナー）での発表（複数名）。
 - ・造形教育センター、児童造形教育研究会、美術科教育学会での発表（複数名）。
- (4) 前年度の学校活動に関する学校評価実施、報告（公表）すると共に、学校評価を毎年実施する体制を整える。
 - ・学校評価の実施（保護者アンケート、自己点検、評価委員による評価の実施）。
- (5) 特色ある教室配置・施設・設備に見合った教育実践・内容（カリキュラム）の継続と更なる充実に向けた研究の継続。
- (6) 砧移転100周年記念教育改造研究会の開催。

《事業報告》

- (1) デジタル・シティズンシップ教育の充実について

日本私立小学校連合会東京地区教員研修会（6月）、教育改造研究会（2月）において、生成AIをテーマにしたデジタル・シティズンシップ教育の新規教材を公開した。
- (2) 合理的配慮を必要とする児童の支援につながる児童理解研修会の実施について

スクールカウンセラーとして、堀辺先生の週3回のカウンセリングの実施と、校長・副校長・担任・カウンセラー・養護教諭の連携が上がったことで、問題が大きくなる前に対応できるようになった。また巡回カウンセラーとして今年度より年間20回、鰐淵公認心理士にも来校いただき、適宜相談にのっていただいたので、対応力が上がった。
- (3) 研究発表に関して
 - ・数学部が新算数研究会（湯河原セミナー）で発表した。
 - 数学部が国立教育政策研究所の研究協力校として認定され、一年間研究協力をした。
 - ・美術部が、造形教育センター、児童造形教育研究会、美術科教育学会で発表した。
- (4) 学校評価を実施する体制の整備について
 - ・アンケート項目の文章表現に関しての吟味を行い、学校評価を実施した。
- (5) 特色ある教室配置・施設・設備に見合った教育実践・内容（カリキュラム）の継続と更なる充実

に向けた研究の継続について

- ・教育改造研究会や各教科部主催の授業研究会にて、継続研究の成果を発表した。

(Ⅲ) 社会連携活動

《中期計画の目標》

奉仕活動・成城学園前駅付近商店との地域連携の強化を模索し、検討する。

《中期計画の取組》

①朝の挨拶運動、地域の清掃活動等

②社会連携の一環として、世田谷ー当時は砧村喜多見と呼ばれたー移転100周年を機に、成城のまち100年記念事業を学園と成城・祖師谷地域とで一緒になって盛り上げることに協力する

《事業計画》

- (1) 清掃活動について、感染防止対策を講じた実施。
- (2) 成城学園前駅付近商店との地域連携については、社会科「地域の学習」と連動して実施。
- (3) 保護者と協力しての交通安全指導の継続実施。
- (4) 敷地を接する世田谷区立祖師谷小学校との児童・保護者・教職員・校長各レベルでの学校間交流活動の継続・活性化。
- (5) 学校協議会及び学校関係者評価委員会活動を通じての情報共有と学校連携の継続・活性化。
- (6) 音楽でつながる成城・祖師谷地区との連携。
- (7) 狛江市教育委員会と連携した社会科新カリキュラムの検討・実施。
- (8) 企業や研究機関と連携したプログラムの実施や研究協力の拡充。

《事業報告》

- (1) 清掃活動について、感染防止対策を講じた実施について
社会に貢献できる児童の育成を目的に、生活推進部を中心に活動を検討した。
- (2) 社会科「地域の学習」(成城学園前駅付近商店との地域連携)の実施について
祖師谷のサミットや砧清掃工場と連携して社会の学習を計画・実践した。地域の商店街やボランティアとの連携で様々な方から児童が直接話を聞いたり、インタビュー資料作成にご協力を頂いたりする機会をもった。
- (3) 保護者と協力しての交通安全指導の継続実施について
子どもの登校の見守りを父母の会の協力を経て実施した。
- (4) (5) 祖師谷小学校とは、今年度も、避難訓練の二次避難場所として初等学校グラウンドをお貸しするなどの交流を行った。また、学校協議会及び学校関係者評価委員会活動を通じての情報共有と学校間連携を行った。
- (6) 音楽でつながる成城・祖師谷地区との連携について
(音楽) 今年度は、日程調整がつかず実現できず、次年度に向けて連携を検討中です。

(IV) 教育環境整備

《中期計画の目標》

- 1) GIGA スクールとして相応しい環境の整備。
- 2) 小グラウンドの環境整備。
- 3) 第二校舎の環境整備。

《中期計画の取組》

- ① 全児童1人1台端末・1人1IDの整備、デジタル教科書の導入
- ② 生涯体育に関する研究成果の実現
- ③ 音楽のへや、社会科のへや、英語のへや(English Room)、美術(絵、彫塑、工芸)のへやの設備充実

《事業計画》

- (1) 児童1人1台iPad 計画実行の5年目で、3～6年生児童個人持ちiPadの活用。3年生は新規端末購入を基本に各家庭負担の理解・協力。
- (2) 特色ある教室配置・施設・設備に見合った教育実践・内容(カリキュラム)の継続と更なる充実に向けた研究の継続。
- (3) 通称「丸太小屋」の建替に伴う教育環境の再検討・充実。
- (4) 映像科PCの入れ替えに伴う映像科カリキュラム改訂の検討・試験実施。

《事業報告》

- (1) iPadを今年度も滞りなく3年生へ配布し終えた。なお、試験的にペアレントコントロールの利用もスタートした。児童がより安心して使えるよう、保護者が安心して見守れるように日々改善を行った。
- (2) 「デジタル・シティズンシップ教育」について
第51回全日本教育工学研究協議会全国大会にて、実践報告をした。
前述の通り、教育改造研究会にて授業実践を公開をした。
- (3) 保護者の寄付により、「丸太小屋」の建替えがなされ、9月下旬に子ども達にお披露目された。

中期計画以外の事業計画

《事業計画》

- (1) 個性尊重の教育の充実のための研修会の実施。
- (2) 個性尊重の教育の充実のためのシステム(1学級2人体制)づくりと人的補充についての検討。
- (3) 児童・保護者・教職員の健康と安全を守る防犯・防災・防疫対策万全化。

《事業報告》

- (1) 個性尊重の教育の充実のための研修会の実施について
1学期に研究部主催の研修会を行い「内面のゆたかさ」について、意見交換を行い、先生方それぞれの考え方についてふれる機会を得た。今後、互いの個性が尊重される「内面のゆたかさ」をもった子どもの育成について研究を進めた。
- (2) 個性尊重の教育の充実のためのシステム(1学級2人体制)づくりと人的補充についての検討。
3年生と5年生以外の学年は1学級2名体制で学級経営を行っているが、3年生は学年に2人、5

年生は学年に2人の教員配置になっており、現状実現できていない。保護者対応や特性の強い児童への対応を丁寧にしていくためには、どうしても人員が不足している状況にある。

(3)児童・保護者・教職員の健康と安全を守る防犯・防災・防疫対策万全化。

成城幼稚園

(I)教育活動

A. 国際教育

《中期計画の目標》

- 1) 幼稚園独自の語学教育を通じて、外国人に対し物怖じせず、コミュニケーションを図りたいという意欲を育てる。
- 2) 身近な経験を通じて、日本文化と他国の文化の存在を理解させる。

《中期計画の取組》

- ① ネイティブ講師との出会いを通じて、英語教育の充実を図る。
- ② 節句、七夕、ひな祭り、節分等、日本の伝統行事を体験させる。
- ③ 大学・高校への各国からの留学生との交流を通し、他国言語・文化を感じる機会を設ける。
- ④ 他国での生活を経験している在園保護者に協力を得ながら、日本以外の国の文化や言語を身近に感じる機会を設ける。

《事業計画》

【語学教育】

- ・ ネイティブ講師も日本人教師と一緒に日々の保育にかかわり、子ども達に生活の中での英語を体験させる。
- ・ 年長・年中は週2回、年少は週1回、ネイティブ講師を中心に、基礎的な英単語やフレーズを身につける英語活動の時間を持つ。
- ・ 学園他校のネイティブ講師や留学生との交流の機会を設ける。
- ・ 英語に触れる時間をさらに増やすため、年中・年長で希望者を対象に英語のアフタースクールを開く。

【国際交流】

- ・ 各国の文化の違いを理解する為の基礎となるよう、日本の伝統行事の体験の機会を多く提供し理解させる。
- ・ いろいろな国やその文化を考えさせる機会を設ける。
- ・ 他国での生活を経験している在園保護者等に協力を得ながら、日本以外の国の文化や言語を身近に感じる機会を設ける。

《事業報告》

【語学教育】

日々の保育でネイティブ講師と出会い、英語に親しむ時間を持つことができた。

ネイティブ講師との毎朝の挨拶で英語を使うことができた。

毎月のお誕生日会でネイティブ講師によるインタビューに英語で答えることができた。（年長は名前・クラス・年齢・生まれ月を答える）

初等学校担当のネイティブ講師がスキー学校中に来園し、交流することができた。

英語の活動で英語の歌を練習し、学園音楽祭で発表することができた。

引き続き英語のアフタースクールを予定通り実施した。

【国際交流】

節分・クリスマス会・ひな祭りなどで日本や外国の文化に興味を持つことができた。

掲示されたロシア語・韓国語・フランス語などの挨拶を見て言葉の違いについて興味を持つことができた。
海外経験のある保護者との交流については実施することができなかった。

B. 理数系教育

《中期計画の目標》

- 1) 自分の主張を伝え、相手の考えを聴く力を養い、解決策を考える力を身につけた子どもを育成する。
- 2) ICTの楽しさ、便利さを体感させ、同時にデジタルシティズンシップ教育も行い、より良い付き合い方を確立させる。
- 3) 身近な資源の使い方について考えさせる環境教育に取り組む。

《中期計画の取組》

- ① 自分の意見や考えを友達の前で話す機会を作る。
- ② 友達の考えや話を聞いて、自分の考えと異なる友達の考えに気付く体験をさせる。
- ③ 教員は子ども達と一緒に、問題を子ども同士で解決する機会を作る。
- ④ 友達と協力しながら、工夫して大きな製作物を創り上げる。
- ⑤ 子ども達(年長)と、インターネットの楽しさと危険なことの両面を話し合う機会を作り、ICT 機器との付き合い方を考えさせる。
- ⑥ 子ども達がインターネットをより正しく使う使い方を考えるような保護者教育の機会を作る。
- ⑦ 自然観察の中で発見した生き物や草花について、図鑑やICT機器を活用し、教員と一緒に調べる機会を設ける。
- ⑧ 野菜の栽培を行い、食べる楽しみを養うために、収穫を体験させる。
- ⑨ 身近な生活の中で体験できる、子ども達にとって「知らなかった」「不思議だ」と感じられる科学的変化を伴う体験を、経験させる。

《事業計画》

【論理力の育成】

日々の幼稚園生活の中で以下の活動を常に心がける

- ・ 自分の意見や考えを友達の前で話す機会を作る。
- ・ 友達の考えや話を聞いて、自分の考えと異なる友達の考えに気付く体験をさせる。
- ・ 教員は子ども達と一緒に、問題を子ども同士で解決する機会を作る。
- ・ 積み木や折り紙等、完成形をイメージして、工夫しながら様々なものを創り上げるようにかかわる。
- ・ 友達と協力しながら、工夫して大きな製作物を創り上げるようにかかわる。
- ・ 仮説を沢山立て、それを験してみる機会を作る。
- ・ 新しい発見や気付いた変化を友達と共有し、一緒に共感できるようにかかわる。

【デジタルシティズンシップ教育】

- ・ 子ども達(年長)とインターネットの楽しさと危険なことの両面を話し合う機会を作り ICT 機器との付き合い方を考えさせる。

【科学教育・環境教育】

- ・ 動物や植物について発見・観察する喜びを体験させる。
- ・ 身近なものについて図鑑や ICT 機器を活用し調べる力を身につけさせる。
- ・ 野菜の栽培を行い、食べる楽しみを養うために、収穫を一回以上体験させる。
- ・ 植物の生長を知るために、花の種子や球根を植えること等を一回以上体験させる。
- ・ 「知らなかった」「不思議だ」という気持ちを科学的な思考に結び付ける力を育てる。
- ・ 学園他校の協力を得るなどして、理科の実験授業を体験する機会を持つ。
- ・ 遠足や見学を通して科学的な興味を高める機会を持つ。
- ・ 恐竜・化石ギャラリーの見学を通して、過去の時代の生物への関心から想像力を育む。
- ・ 身近なエコを考えたり、資源の無駄使いをしないような紙芝居などを読む。

《事業報告》

【論理力の育成】

日々の保育の中で数を数える機会を多く持つことができた。

年中・年長で協力して文化祭の大きな展示物を共同製作することができた。

【デジタルシティズンシップ教育】

専門家による「メディアバランス」についての授業を受け、日々の生活を振り返ることができた。

【科学教育・環境教育】

中高の理科教員による実験教室をおこなった。光の三原色の合成について実際にライトを用いて体験することができた。

卒園生保護者の協力を得て芋ほりをおこない、植物の成長について考える経験を持った。また園庭で焼き芋を作り、火の力に興味を持つことができた。

年長組は鉄道見学をおこない、電車の仕組みに興味を持つ経験ができた。

計画していた恐竜・化石ギャラリーの見学はスケジュールの都合でおこなうことができなかった。

来年度以降の課題としたい。

C. 情操・教養教育

《中期計画の目標》

子ども達の想像力を育て、人の気持ちへの理解を深める。及び、芸術に対する感受性を育て、創造力や表現力に対する感性を磨く。

《中期計画の取組》

- ①絵本の読み聞かせ活動や製作活動等により、子ども達が自分でイメージを膨らませたり、教員や友達とイメージを共有し想像力を育てる機会を作る。
- ②音楽や美術を中心に幅広い分野で“本物に触れる機会”を多く与える。

《事業計画》

- ・絵本の読み聞かせ活動や製作活動等により、子ども達が自分でイメージを膨らませたり、教員や友達とイメージを共有し想像力を育てる機会・工夫を教員間で検討・共有する時間を学期毎に設ける。
- ・劇団や音楽家の公演を鑑賞し、本物の芸術に触れる行事を設ける。
- ・保護者や学園関係者などの協力を得て、芸術・文化・スポーツなどの分野での職業体験をする機会を持つ。
- ・想像力・表現力・創造力等の感性を磨くために、ごっこ遊びや劇遊びの表現活動の機会を設ける。
- ・「お楽しみランチ」を月2回程度に増やし、食べることへの興味関心を育てる。
- ・造形の授業を通して、制作の喜びを体験させる。
- ・リズムの授業を通して、身体を動かす喜びを体験させる。
- ・宿泊行事（年長）を通して、教員や友達との交流を深め、他者への関心を高めるとともに、感謝の気持ちを喚起させる。
- ・美術制作に取り組む機会をさらに増やすために、年中・年長で希望者を対象に美術のアフタースクールを実施する。
- ・身体を動かす機会をさらに増やすために、年長で希望者を対象に体操のアフタースクールを実施する。

《事業報告》

日々の保育の中で、絵本の読み聞かせ・ごっこ遊びなどにより想像力や表現力を高めることができた。

造形の授業を通して創造力を高めることができた。

幼初合同運動会で協力して種目に取り組み、初等学校児童の活動を見ることで、身体を動かす楽しさを感じることができた。

職業体験として僧侶・お寺についてお話を聞き、興味を持つことができた。

初等学校の協力を得て、リズムの授業を予定通り実施することができた。

音楽会（ロバの音楽座）に参加し音楽を鑑賞する楽しさを味わうことができた。

ひな祭りでおこなった劇で演技をする経験を持つことができた。特に年長組は脚本や配役も自分たちで考え、みんなで協力して劇を作ることができた。

三省堂でのお買い物体験によって、社会の仕組みに触れることができた。

引き続き、体操・美術のアフタースクールを予定通り実施した。

III.

教育研究所の部
法人事務局の部

教育研究所

(Ⅱ) 研究活動

《中期計画の目標》

【教育研究所50周年記念事業】

2027年の研究所開設50周年にあわせて、特色ある研究機関としての機能の充実を図る。

《中期計画の取組》

- ① デジタルアーカイブ構築・公開(澤柳私家文書、澤柳文庫など貴重な教育資料)
- ② 蔵書検索システム立ち上げ(ネット検索を実現し研究者の利用の便に供する)
- ③ 研究所独自サイトの立ち上げ(上記の成果や歴史記念館情報等の発信)
- ④ 教育資料に関する調査活動の継続(資料収集、整理他)
- ⑤ 貴重資料の修復、脱酸化(小林文庫、澤柳文庫等/研究者の利用の便に供する)
- ⑥ 専門家を招聘した講演会、シンポジウムの開催(学園における教育研究の推進)
- ⑦ 50周年記念の研究助成の実施(特色ある一貫教育の実現と推進のため)

《事業計画》

- ① 基礎作業として掲載資料選定と熟覧を継続。百年史デジタル資料集公開に向けた準備。
- ② 2024年度検討をふまえ、プラットフォームの方向性を吟味。前提作業として蔵書データの調整。
- ③ 独自サイト立ち上げに向けた学内での連絡調整の継続。デジタルアーカイブとの連携の検討。
- ④ 2024年度に引き続き、関係資料に関する調査と翻刻作業の継続。
- ⑤ 修復に向けた資料の熟覧・選別の継続と、修復の一部を予算内で実施。
- ⑥ 所員会議において審議して企画を立案し、講演会などの催しを実施する。
- ⑦ 2024年度に洗い出した課題について、所員会議での討議を開始する。

《事業報告》

- ① デジタル資料集制作に向けて、百年史からの資料選定作業を継続。構成の具体的検討。
- ② 前提作業としての蔵書確認作業を進め、1990年代まで遡って購入価格を確認(作業継続中)。
- ③ 1月に第146回全国大学史資料協議会東日本部会研究会に参加、他学事例の把握に努める。
- ④ 「進捗状況④」に加え、研究所所蔵資料の翻刻も実施(小宮資料等)。
- ⑤ 「小林文庫」については専門家の学術整理作業を支援、「澤柳文庫」については一部を修復。
- ⑥ 「進捗状況⑥」に加え、11月にOBによる茶話会「アルザス語に会いに行く」を開催。
- ⑦ 2026年1月の定例所員会議において課題点を所員と共有し、来年度への継続審議とした。

(Ⅲ) 社会連携活動

《中期計画の目標》

【砧移転100周年事業】

2024～2025年の地域開発と学校移転の100周年を起点として、成城学園と世田谷区、成城地区との特色ある関係を強化し周知する。

《中期計画の取組》

- ①せたがや文化財団、世田谷区教育委員会、松本市等、地域や関係機関との連携事業を企画、運営、共催
- ②各種講演会等の実施(「成城 学びの森」との連携講座の共催、また「成城」の特色ある歴史や環境をテーマとして自治会・世田谷トラスト等との講演会の共催)
- ③学園関係、地域の演奏家によるコンサート開催(地域住民の鑑賞可)
- ④各校園で周年行事を実施する際の広報活動の支援(2025年度:幼稚園、成城玉川小学校開設100周年、2026年度:旧制高校開設100周年、2027年度:旧制高等女学校開設100周年)

《事業計画》

- ①世田谷区立郷土資料館の2024年度特別展(「成城の歩み 100年」)との関連展示を上半期に実施予定。また、2026年度の旧制高校展実施に向け準備作業に着手する(長野県松本市の教育委員会・博物館との連携)。
- ②「成城 学びの森」オープンカレッジに専門家を招聘し、澤柳教育に関する講演会を開催する。また、大学の全学共通教育科目「成城学園を知る」に成城自治会関係者をゲスト講師として招き、学園と地域の関係、地域の歴史や特徴などを学ぶことを予定している。
- ③地域の100年祭実行委員会と連携しながら、地域からの要請に応じて実施する予定。
- ④幼稚園開設百年に関わる企画展示を、下半期に実施予定。

《事業報告》

- ①「進捗状況①」に加え、11月に松本市で開催の創業者生誕160周年記念事業(同窓会主催、松本教委・成城学園後援)の支援を実施(企画協力、所長の登壇)。1月以降は、区の文化財係と共に、学園と地域をテーマとしたTV番組制作に協力。旧制高校展開催に向けデータ作成に着手。また、今年度の特別な対応として、島根県立美術館での企画展への創業者肖像画の出品を担当した(2026年3～6月、「島根から世界へ—生誕150年石橋和訓展」にて展示)。
- ②「進捗状況②」に加え、2月にみつ池と国分寺崖線をテーマに講座「成城を知る」をプレ的に実施。来年度の「成城学園を知る」への講師招聘につき調整を実施。
- ③「進捗状況③」に加え、成城100年祭展示班や世田谷トラストまちづくりによる展示企画への協力(展示用資料の提供)。また100年祭記念誌班への編集協力を継続(分担執筆、資料提供)。
- ④11月～12月に「ぼくら わたし 成城の子どもです」を開催。園児を対象にした見学会も実施(年少～年中組)。保護者はじめ関係者に、幼稚園の歴史への認識を深めてもらうように努めた。和光学園の年史担当者にも見学してもらい、意見交換を実施。

(IV) 教育環境整備

《中期計画の目標》

【歴史記念館の利活用の充実】

歴史記念館を自校史教育の基幹的センターであると共に、ステークホルダー(受験生を含む)のためのフロントとして位置づけ、成城学園の特色ある歴史と教育を周知する。

《中期計画の取組》

- ①歴史記念館における生徒、学生などを対象とした授業外の教育機会の定例化(企画展示見学、ギャラリートークなど)
- ②教育の三位一体を充実させるための講演会等の催しの開催(主に保護者対象)
- ③定期的な展示内容の更新と充実を実施
- ④ミュージアム機能の充実と学園内の認知度を高めるため、博物館相当施設登録を旨とする
- ⑤ノベルティなどを制作・頒布して認知度を高める
- ⑥澤柳研究(2027年が没後100年)や大正新教育の最新の成果をまとめた「成城教育選書」(仮称)など、刊行物を通じて世間での認知度を高める

《事業計画》

- ①2024年度の実績をふまえてフォーマットを更新し、2025年度の各校の要望に対応する。
- ②Ⅲの①と④の関連イベントとして実施する予定。
- ③上半期の企画展示実施に合わせて、一部展示の更新を進める。
- ④学園資料目録作成を継続し、博物館相当施設登録に向けた勉強会ないし視察を実施する。
- ⑤2025年度の企画を考えて頒布を継続実施する。
- ⑥シリーズ最初の冊の内容検討、執筆候補者への依頼に着手する。

《事業報告》

- ①「進捗状況①」以降も、大学ゼミ、WRDなどの一環で3回見学会実施。高校の三学期特別授業での施設利用に対応(職員による講話実施)。中学校高校の学校説明会時も都度対応している。
- ②「進捗状況②」に加え、講座「成城を知る」を開催。
- ③7月～8月の「成城の歩み100年 一步前」開催、11月～12月の「ぼくら わたし 成城の子どもです」開催に合わせ、常設展示の一部入れ替えを実施。
- ④第一回目の勉強会を開催し情報共有。関連文献の収集、視察先候補の検討を進めた。
- ⑤既制作分在庫(不織布袋)の有効活用の継続。次年度制作物(ポストカード等)の準備実施。
- ⑥第一冊執筆候補者と都度連絡を取りつつ、刊行に向け具体的な内容検討他、準備作業を継続中。

法人事務局

(Ⅲ) 社会連携活動

《中期計画の目標》

【広報:認知拡大】

成城学園、成城大学及び世田谷区成城の知名度の向上。

《中期計画の取組》

- ①成城学園移転 100 年プロジェクトの実行
- ②「知性・意欲・心」を育む「本物に触れる」機会の拡大

《事業計画》

- ①成城学園移転 100 周年の当年度にあたり、成城学園移転 100 年＝成城のまち 100 年を学園内外に周知するために以下の活動を行う。
 - ・移転 100 周年周知のための広告掲出（ポスター掲示、動画広告掲出など）
 - ・ピアノリサイタルへの地域住民招待
 - ・シネマデー（映画鑑賞会）の開催
 - ・クリスマスマーケットの開催
- ②恐竜・化石ギャラリーの見学者を増やすことを目指し、以下の活動を行う。
 - ・一般公開（7月）
 - ・恐竜写生会（9月）
 - ・ナイトミュージアム（10月）
 - ・都内全域の小中学校を中心に恐竜・化石ギャラリーの案内を配布し、他校からの団体見学の件数増加を目指す。
 - ・一般公開の新規来場者獲得に向け、国立科学博物館の恐竜展をはじめとした全国の恐竜展来場者をターゲットとした広告を掲出する。

《事業報告》

- ①成城学園移転 100 周年関連

以下の広報活動、関連イベントを実施した。

広報活動

 - ・移転 100 周年特設サイト内「移転 100 周年事業関連ニュース」随時更新
 - ・成城学園前駅構内、成城学園正門に移転 100 周年フラッグ掲出、ポスター掲示及びちらし設置
 - ・移転 100 周年 PR 動画放映（小田急線車内ビジョン、たまがわ花火大会会場ビジョンほか）

関連イベント

 - ・ピアノリサイタル（6月21日・近隣住民の方を 100 名無料招待）
 - ・シネマデー（11月15日）
 - ・クリスマスマーケット（12月6日、7日）
 - ・『息子と呼ぶ日まで』映画上映会+トークショー（12月13日）
- ②恐竜・化石ギャラリー

以下の期間、恐竜・化石ギャラリーを公開した。

 - ・一般公開（7月19日から23日まで）

成城地域のラジオへの出演などにより近隣住民へ周知を行った。また、公開中にアンモナイトをテーマにした版画展示や講演会を開催した他、学びながら見学できるワークシートを配付する施策を行った。
 - ・文化祭（11月2日、3日）

- ・他校や学外団体による見学
その他、以下のイベントを実施した。
- ・恐竜写生会（9月27日）
- ・ナイトミュージアム（10月24日）

(IV) 教育環境整備

《中期計画の目標》

【施設:学園施設整備計画】

「知性・意欲・心」を育む学修環境の整備・充実

【施設:キャンパスの憩いの場充実計画】

学園内各所自然環境における維持管理及び緑化推進計画の策定と実行。

《中期計画の取組》

- ①第2次中期計画で策定した中長期修繕計画等に基づく施設整備・建設の実施
- ②計画に則った既存樹木の維持管理や植樹の実施
- ③誰もがキャンパス内で自然環境に触れることのできるエリアを各所に構築

《事業計画》

- ①-1 大学新校舎建設については、学習スペースの充実を進め、オンライン教育やハイブリッド型学習に対応した設備の強化を計画する。特に、教室やカフェテリア、ラーニングコモンズなどの共用エリアの改修計画については、中長期修繕計画を視野に既存施設が有効活用できるよう設計者と協議、提案を行う。
- ①-2 新たな監視カメラの設置や照明等の増設を検討し、動線における危険箇所を見直し、安全対策を強化する。
- ②成城学園グリーンプロジェクトを開始する。初年度となる令和7年度は、幼稚園園庭の緑化整備を行う。また、学園内の特に重要な樹木や緑地については、定期的なメンテナンスを実施するとともに、新たな植樹を進め、緑化の拡充を図る。
- ③初等学校校庭グリーンベルトに設置する「丸太小屋」の建替えを行い、児童が自然に親しむエリアの整備を行う。

《事業報告》

- ①-1. 大学新校舎建設
学習スペース拡充及びオンライン・ハイブリッド授業に対応した設備要件の整理を行った。共用エリアについては、既存改修と新設の整理を行い、年度内に改修計画を策定し、次年度の実施設計に向けた準備を完了した。
- ①-2. 安全対策の強化
夜間における学内の危険箇所について、防犯カメラの新設及び外灯の高照度化を実施するとともに、通学路等の照度確認を行い、次年度に向けた改善計画を策定した。
- ②成城学園グリーンプロジェクト
幼稚園園庭の老木植え替え、高木の選定を実施するとともに、学園正門から記念講堂周辺にかけての樹木について大規模剪定を実施した。また、高等学校校庭周辺の補植を行い、キャンパス全体の緑化環境の維持・向上を図った。
- ③初等学校校庭グリーンベルト整備
児童が自然に親しめる環境として老朽化した「丸太小屋」を建替え（再整備）し、安全性及び利用環境の向上を図った。

(V) その他重点項目

《中期計画の目標》

【広報:成城学園の魅力の再発見】

成城学園らしさを見つめなおし、成城学園のブランドをさらに磨く。

【広報:広報活動のデジタル化】

利便性の向上と資源・環境への配慮を考え、広告媒体のデジタル化促進。

《中期計画の取組》

- ①各校サイトの再構成
- ②広報活動におけるデジタルシフト
- ③コンセプトを統一した広報活動
- ④キャンパス(自然・環境)広報

《事業計画》

成城学園の魅力をより広く伝え、ブランドを向上させるために以下の取り組みを行う。

- ①初等学校ウェブサイトトップページリニューアルを実施する。
- ②「sfu! 成城だより」をウェブコンテンツへ移行し、広報活動のデジタル化を図る。
- ③統一デザインによるグッズ展開を図る。
- ④成城学園が運営する note の新規購読者獲得を目指し、成城学園や成城のまちの自然や地形をテーマとした note のマガジン「seiyo nature」での新企画の立案や企画のシリーズを検討する。

《事業報告》

- ①初等学校ウェブサイトトップページリニューアルが3月に完了した。
- ②「成城学園報」の学園各校のニュースを掲載した「News Digest」をリニューアルした。これにより掲載ニュースの数が増え、各校の近況を詳細に周知することを可能とした。
また、Note「成城学園オープン学園報」を毎月配信し、在校生、保護者、卒業生に加え、一般の方へ「しなやかな知性、挑戦する意欲、共感する心」の周知を図った。
- ③統一デザインの下、オリジナルキャンパスバッグとTシャツを制作した（学内売店で取り扱い）。
- ④成城のまちと自然をテーマにした note のマガジン「seiyo nature」で、幼稚園ガーデニング委員の活動、初等学校の散歩の授業、中高教諭による成城学園の「いのちを守る教育」、大学の授業「成城学園を知る」の学内フィールドワークと、各校の取組や教員、授業を題材とした記事を発信した。

《中期計画の目標》

【職場環境:新たな創造に挑戦できる職場へ】

教職員の意欲や能力の向上につながる制度。メリハリある給与体系の構築。

働きやすさや心身の健康を考慮した職場環境の構築。

大胆な事務合理化。

《中期計画の取組》

- ①多様な働き方を可能とする制度設計
- ②メンタルヘルスサポートの拡充
- ③能力や業績に基づく評価制度と給与体系の整備
- ④キャリア開発のための研修や教育プログラムの充実
- ⑤業務フローの見直しとデジタル化等によるプロセスの最適化

《事業計画》

- ①法改正に伴い学園内諸規則を改正し、より働きやすい職場環境整備に引き続き取り組む。
- ②学園で勤務する教職員の各職層に向けた適切なハラスメント防止研修等を実施し、教職員のメン

タルサポートの充実を図る。

- ④教職員が成城学園での長期キャリアビジョンを持ち、自身のキャリア形成を図れるよう、各種研修を実施する。
- ⑤電子契約の導入検討と規則を整備する。

《事業報告》

- ①育児介護休業法改正に伴い、対応すべく学内諸規則や運用ルールなどを整備した。再雇用嘱託教職員の待遇改善や事務職員の土曜休暇体制整備など、学園に勤務する教職員の職場環境整備に取り組んだ。
- ②全教職員を対象としたハラスメント研修を大学と共催で実施した。また中学校高等学校、事務職員に対してはパワハラやカスハラについて理解を深めるべく、事例検証を含めた研修を実施した。
- ④事務職員向けの管理職研修や階層別研修を実施した。
- ⑤電子契約については、東京都や地方公共団体等の規則事例を収集した。

《中期計画の目標》

【DigitizationとDigitalization】

各種ソリューション活用により、各校の校務事務を効率化し、コスト及びタイムパフォーマンスを向上させる。

《中期計画の取組》

- ①AI が組み込まれたソフトウェア等の活用
- ②各種デバイス及びIOTを身近にした業務の省人省力化
- ③仕事の場所や方法に柔軟性を持たせ、各人の能力が引き出せる環境の用意

《事業計画》

学校業務を遅滞なく進めるため IT 環境を整備する。

- ②昨年度実施した中学校高等学校の教職員用 PC のリプレイスに続き、幼稚園と初等学校の教職員用 PC を入れ替え、校務活動の円滑化を支援する。
- ③法人事務局の業務用 PC のリプレイスに伴い、セキュリティ対策を講じつつ各種業務に適したネットワーク環境を整備し、携帯性に優れた機器へと入れ替え利便性の向上を図る。

《事業報告》

- ②新 IT 環境へのデータ移行を完了し、デジタルデータを活用した授業進行が円滑に行えるよう、機器構成を更新した。また既存 IT 環境などについても、各種ソリューションを活用し、新環境においても活用できるような施策を実施した。
- ③法人事務局内 PC リプレイスを完了し各部署の PC 環境を刷新した。併せてネットワーク環境を更新し、業務内容毎に求められるセキュリティレベル環境を構築した。

《中期計画の目標》

【ガバナンス:構造の見直しと強化】

改正私立学校法が求める「運営基盤の強化」「透明性の確保」の実践と定着。

《中期計画の取組》

- ①改正私立学校法を含む法令に準拠した適切な規則整備

《事業計画》

私立学校法の改正に伴い、新たな寄附行為及び寄附行為施行規則を始めとする、関連諸規則に基づく、理事会、評議員会等の運営を円滑に行う。

また、理事選任機関による理事の選任、6月の定時評議員会での会計監査人の選定等、法に対応した運営を行う。

《事業報告》

令和7年度の理事会・評議員会及び理事選任委員会について、改正私立学校法に基づいた運営を行った。

なお、新寄附行為（令和7年4月施行）に関しては、運用上修正が箇所があることから、理事会及び評議員会での審議等を経て、文部科学省に認可申請中（令和8年3月）である。

《中期計画の目標》

【会計:新会計基準への対応】

新会計基準に対応した決算業務への移行と確立。

《中期計画の取組》

- ①新会計基準に対応する規則整備
- ②現行の決算業務の見直しと必要に応じた基幹システムの変更

《事業計画》

- ①私立学校法改正に伴う新会計基準施行に対応すべく関連規則の整備を行う。
- ②新会計基準施行に伴う監査法人及び監事への確認を含めた現行決算業務フローの見直しを実施し、令和7年度決算（令和8年6月）に向けた各種フォーマットを改訂する。

《事業報告》

- ①学園内の会計関連規則について見直しを実施し、新会計基準に則った規則の改定を行った。
- ②令和7（2025）年度決算において、新会計基準による会計処理、監査法人・監事による監査、理事会・評議員会による承認に至るまでの業務フローを見直すとともに、各種決算関係書類の変更等、新会計基準に則した決算を実施した。

《中期計画の目標》

【会計:支払業務DX】

DXとキャッシュレス化。

《中期計画の取組》

- ①インボイス制度、電子帳簿保存法を踏まえたペーパーレス化の実現
- ②キャッシュレスサービスの調査他、導入に向けた準備

《事業計画》

- ①昨年度より順次システム導入を開始した会計関係業務（インボイス制度、電子帳簿保存法対応）のペーパーレス化について、対応ができていなかった業務範囲（立替払い対応等）をシステム化し、さらなるペーパーレスを推進する。
- ②学園内業務における現金の取扱いについて、事故防止及び管理業務効率化の観点から、キャッシュレス化未対応の業務サービスについて、クレジットカードやQRコード決済等、携帯端末を利用したキャッシュレスサービスの今後の方向性について、徴収方法の変更を含めた導入可能サービスを検討する。

《事業報告》

- ①ペーパーレス化が未対応である支払関係業務（立替払い）について、既に稼働している予算執行管理システムの機能を用いた旅費交通費、手当等の支払処理のシステム化を決定した。

②汎用性の高いサービス選定のため、キャッシュレスサービスの動向調査、情報収集を実施した。結果、各種キャッシュレスアプリ等は主に個人向けサービスに限られ、本学における業務効率化に有効な決済サービスは未開発であるとの判断に至った。

《中期計画の目標》

【財務計画】

学園経営に必要な財務構造の確立とそれを踏まえた支出計画の構築。

《中期計画の取組》

- ①中期財務計画等、複数年に亘る計画に関する改訂ルール化
- ②財務に関する各種ポートフォリオの見直しと確立

《事業計画》

- ①第3次中期計画に対応する財務計画「中期財務計画2030」について、入学者数確定等の収入見込みの改定に留まらず、人件費等の支出面の見直しを実施するとともに、今後の学園財務計画方針について検討する。
- ②新会計基準におけるセグメント会計の確立及びセグメント会計に伴う校納金改定に関する基準について検討する。

《事業報告》

- ①第3次中期計画にある大学10号館等建設計画を踏まえた財務計画「中期財務計画2030（令和7年度版）」を策定し、9月開催の理事会、評議員会にて承認を得た。併せて、当該中期財務計画に基づいた令和8年度の予算編成を行った。
- ②新会計基準に則り、令和7年度決算におけるセグメント会計について会計処理を実施、計算書類を作成した。